

## 「『遊び 学び 育つひろしまっ子!』推進プラン」の見直しについて

### 1 要旨・目的

県が目指す乳幼児期の教育・保育を実現するための基本的な考え方と取組内容を示した「『遊び 学び 育つひろしまっ子!』推進プラン（以下「プラン」という。）」策定（平成29年2月）から今年度で5年目を迎えることから、目指す姿（将来像）の実現に向けて、現行プランの見直しを行う。

### 2 現状・背景

平成27年度に実施した「幼児期の教育の充実に関する調査」の結果から明らかになった、本県の現状と課題を踏まえ、教育・保育の更なる充実を図ることを目的に、本県の考える乳幼児期の教育・保育の施策の方向性と取組内容を明らかにするため策定した。

平成30年4月、このプランに掲げる乳幼児期の教育・保育の充実のための施策を総合的に推進するための拠点として、教育委員会内に「乳幼児教育支援センター」を設置し、家庭や幼稚園、保育所、認定こども園等（以下「園所等」という。）、子供が育つ環境に関わらず、県内全ての乳幼児に、乳幼児期に育みたい力の育成に向けた教育・保育が行われ、小学校以降の教育の基盤が培われるよう、「遊び 学び 育つひろしまっ子!」の実現に向け、「オール広島県」で取組を進めてきた。

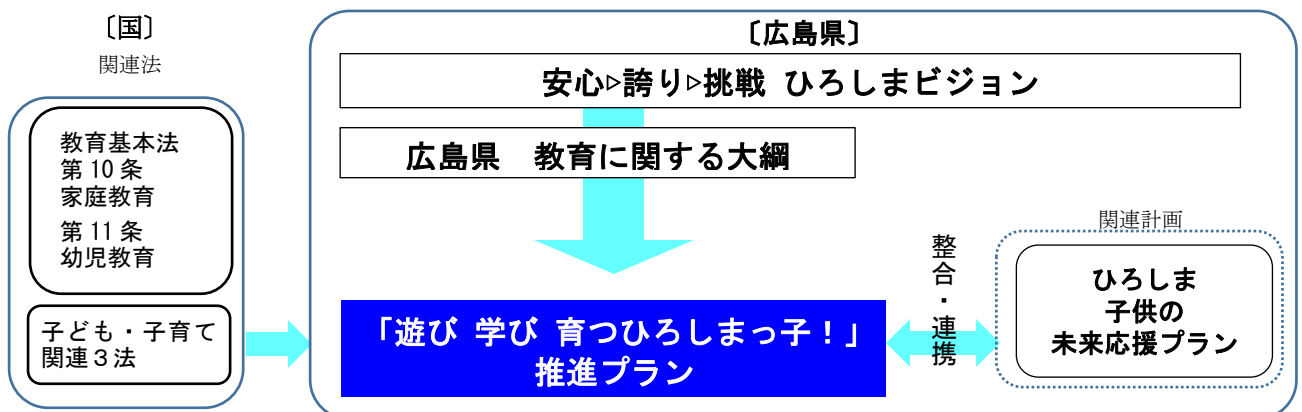
### 3 計画の概要

#### (1) 計画期間

令和4（2022）年度から令和8（2026）年度（5年間）

#### (2) 計画見直しに当たっての考え方

県の最上位計画である「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」や、教育施策全般の基本的方向性を整理した「広島県 教育に関する大綱」を上位計画として、他の関連する計画と整合性を図りながら、施策を推進していく。



(3) 取組の方向

【目指す姿（目的）】

「遊び 学び 育つひろしまっ子！(※)」の実現

(※)「遊び」を通して、子供それぞれの心と体の発達が促され、「探究の芽」が育っている広島の子供

子供が育つ環境にかかわらず、「遊びは学び」という乳幼児期の教育・保育の基本的な考え方が家庭や幼稚園・保育所・認定こども園等、さらには小学校以降で共通認識され、一人一人の子供が興味・関心に基づいてやりたいことを自由に選択できるような環境の中で、子供たちには、生涯にわたって主体的に学び続けるための基盤が培われています。

(「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」より) ※下線を次期プランに追加

(4) 施策体系

現行プランの振り返りや、プラン策定後の社会情勢等の変化、有識者からの意見等を踏まえた施策体系とする。

施策の柱	施策	主な取組案
Ⅰ 子供の育ちのつながり	【施策 1】 教育・保育の内容や方法の充実	(1) 教育・保育の質的向上を図る調査研究・情報発信 (2) 豊かな教育環境の整備 (3) 特別な支援や配慮が必要な子供・家庭への支援 (4) 幼児教育・保育の質の評価の促進
	【施策 2】 教育・保育を担う人材の確保、資質及び専門性の向上	(1) 研修の実施等による資質・能力の向上 (2) 教員・保育士等の人材の確保
	【施策 3】 小学校以降の教育との接続・連携	(1) 学びの連続性を確保する教育課程の充実 (2) 幼保小連携・接続教育の推進に係る仕組みづくり
Ⅱ 家庭・地域のつながり	【施策 4】 家庭教育支援の充実	(1) 「遊びは学び」をはじめとした親に伝えたい内容の共感的理解の促進 (2) 親の育ちを応援する学びの機会の充実 (3) 地域における家庭教育支援のための人材育成・体制整備
Ⅲ 行政・関係機関のつながり	【施策 5】 乳幼児期の教育・保育を推進するための体制の構築	(1) 「乳幼児教育支援センター」を拠点とした質の高い教育・保育の推進

(5) 根拠法令

—

4 スケジュール

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
策定作業		骨子案	素案	最終案			策定
教育委員会会議				●			●
経営戦略会議	●			●			
文教委員会			●	●	●(集中審議)	●	●
パブリックコメント				←→			

## 5 その他（関連情報等）

現行プラン（広島県教育委員会ホームページ）

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/247887.pdf>

## 6 現行プランの振り返り

評価指標の実績点検に加え、施策ごとの目指す姿と取組・現状から見えた課題及び今後の取組の方向性を整理した。

### (1) 実績点検

平成30年4月、プランに掲げる施策を総合的に推進する拠点として「**乳幼児教育支援センター**」を設置し、幼児教育アドバイザー訪問事業、幼保小連携教育の推進、各種の研修や家庭教育支援の取組等を実施することにより、県内の乳幼児期の教育・保育の質の向上に取り組んできた。これらの取組により、**ビジョンに掲げる、乳幼児期に育みたい「5つの力」**が育まれている年長児の割合は増加傾向にある。また、**家庭や園所等、小学校、行政、地域など、多様な主体がそれぞれの役割を果たしながら、乳幼児期の教育・保育について「オール広島県」で取り組む体制が構築されつつある**など、教育・保育の質は総じて向上傾向にある。

指標	基準値 (H27)	現状 (R2)	
『「遊び 学び 育つひろしまっ子!」推進プラン』に掲げる「5つの力」(*)が育まれている年長児の割合 (%)	72.0	74.5	安心▷誇り▷挑戦 ひろしま ビジョン指標 (R7目標値 80.0%)

※5つの力：感じる・気付く力、うごく力、考える力、やりぬく力、人とかかわる力

### (2) 施策別の取組状況

I 子供の育ちのつながり	
【施策1】 教育・保育内容、教員・保育士等の研修の充実等	〔目指す姿〕 園所等において、それぞれの特色を生かしながら、「目指す乳幼児の姿」の実現に向け、5つの力を育む教育・保育が実施されています。
	〔現状〕 教員・保育士等の研修体制を整備し、全園所等の約6割から研修に参加があるなど、施設類型（国・公・私立、幼稚園・保育所・認定こども園等）の枠組みを越えて研修に参加できる仕組みができ、内容も充実してきている。また、 <b>個々の園所等や地域のニーズに応じて専門人材が園所等を訪問し指導・助言する幼児教育アドバイザー訪問事業については、全園所等の約3割が活用</b> しており、訪問を受けた施設長の肯定的評価は高く（100%）、リピート利用も多い。これらの取組を通じて、プランに掲げる「5つの力」を活用（指導計画に盛り込む等）している園所等の割合（R1:52.9%→R2:75.8%（22.9%増））や、 <b>自園の教育・保育の取組の自己評価を実施する園所等の割合（R1:85.0%→R2:88.2%（3.2%増））は増加</b> している。 また、教員・保育士等の人材確保として、保育士人材バンクによるマッチングや保育施設の情報サイトである「ハタラクほいく ひろしま」による保育施設の労働環境の見える化などにより、保育士確保に取り組むほか、保育士キャリアアップ研修の受講者に対する処遇改善や、私立幼稚園の教員確保として、国の支援制度を活用し、幼稚園教員の処遇改善に取り組んでいる。

	<p>[課題] 施設類型にかかわらず、全ての子供たちが主体的に学び続けるための基盤の整備に向けた教育・保育の質の評価の仕組みづくりが十分でなく、県内全園所等へのリーチが実現できていない。</p> <p>[取組の方向] 教育・保育の質の評価に関する手法開発、実践・検証を進めるとともに、事業効果の発信や、園所等の行動変容を促す仕掛けの検討、実務経験豊富な幼稚園教諭・保育士の確保（幼児教育アドバイザーの増員）等により、全ての子供の見取りにつなげる。また、教員・保育士等の離職防止を目的とした処遇改善に取り組むとともに、保育士人材バンク等による教員・保育士等の確保に努める。</p>
<p><b>【施策2】</b> 幼保小連携教育の推進</p>	<p>[目指す姿] 小学校と園所等が連携して、子供の育ちと学びを連続させていく幼保小接続カリキュラムが編成され、学びの芽生えを自覚的な学びにつなぐ教育活動が実践されています。</p> <p>[現状] 幼保小連携担当教員研修やモデル事業等を通じて、「幼保小連携協議会」を設置する市町（H30：7市町→R2：16市町）は増加し、また、「スタートカリキュラム」作成校（R1：69.1%→R2：100%）、「アプローチカリキュラム」作成園所等（R1：87.6%→R2：94.2%）ともに増加している。幼保小連携担当教員からは「1年生の登校しぶりが減った。」「園所等と学校で『顔の見える関係』ができ子供の育ちがつながった。」等の感想が上がるなど、幼保小連携・接続に向けた市町や学校・園所等の体制は全県的に整いつつあり、小学校へ入学した全ての子供が、乳幼児期の育ちと学びを基礎としながら、安心感を持って新しい学校生活に円滑に移行できる（小1プロブレム解消の）仕組みづくりが進んでいる。一方で、小学校の不登校の割合が増加している現状がある。</p> <p>[課題] 学校と園所等の連携や交流が盛んに行われ、全校で「スタートカリキュラム」が作成されているが、実施結果を踏まえ更によりよいものとするための支援を行う必要がある。特に、子供の「見取り」や「支援の在り方」を園所等と小学校が共有し、一人一人の子供の育ちと学びをつないでいくための仕組みが十分でない。</p> <p>[取組の方向] 全ての子供が安心感を持って学校生活に移行し、個別最適な学びが実現されるよう、小学校教員が園所等へ訪問し、乳幼児教育・保育の様子を見学したり、実際に保育体験したりする機会を設けるなど、子供の「見取り」や「支援の在り方」を園所等と小学校が共有し、幼児期の教育・保育を小学校以降へつなげる取組を充実させる。</p> <p>※中央教育審議会 初等中等教育分科会「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」の論点整理の動向も注視。</p>
<p><b>II 親子・地域のつながり</b></p>	
<p><b>【施策3】</b> 子育てに役立つ情報の提供</p>	<p>[目指す姿] 全ての保護者に、乳幼児期のスキンシップや絵本の読み聞かせなど、家庭での取組に役立つ重要な情報が提供され、理解や実践が進んでいます。</p> <p>[現状] 子供の発達段階に応じた、子育てや家庭での取組に役立つ情報を分かりやすく伝える様々な啓発資料を、親しみやすいマンガやイラストを用いて作成し、園所等やネウボラ拠点等を通じて広く配布したことにより、保護者の「遊びの中に学びがある」ことへの理解が促進されている。（「遊びの中に学びがある」ことについて理解している保護者の割合 R2:85.8%）</p>

	<p>[課題] 保護者に伝えたい内容を明確化・具体化し、「乳幼児期に育みたい力」や「遊びの中に学びがある」という本県の教育・保育の基本的な考え方を全ての家庭や地域と共有する工夫を進めていく必要がある。</p> <p>[取組の方向] <b>保護者に伝えたい内容を科学的根拠（エビデンス）に基づく正確な情報として伝え、行動変容（実践）へとつなげる仕掛け</b>を検討する。また、家庭教育に関心がある人、そうでない人にかかわらず、<b>全ての保護者に伝えたい内容を届けられるよう、保護者の関心度等に応じた新しい家庭教育支援の方策に新たに着手</b>する。</p>
<p><b>【施策4】</b> 親子の学び・集いの場の充実</p>	<p>[目指す姿] 子育てを参加体験型で学ぶ機会が保護者に提供され、自信と安心感を持って子育てをすることができています。また、子供の創造性等が生まれ、親子で楽しさを共有できる体験活動が家庭に普及しています。</p> <p>[現状] 子育てについて身近な話題をテーマに当事者同士で話し合う、『親の力』をまなびあう学習プログラム（通称：親プロ）が、県内全市町で主体的に実施されるようになっており、これまでに延べ63,963名が「親プロ」講座に参加し、参加者の8割以上が「子育ての不安が軽くなった」と回答している。また、ネウボラ拠点等に来る保護者を対象に、楽しく気軽に子育てについて学べるプログラムを11種開発するとともに、コロナ禍等で外出しにくい親子を対象に、対面とオンライン併用の「ハイブリッド型」講座をモデル実施した。さらに、親子参加型イベント「あそびのひろば」をモデル5市町で共催した。また、親になる準備期（中高生）の学習機会充実としてファシリテーターを56校へ派遣し、総合的な学習の時間等の授業で取り組む学校を支援している。</p> <p>[課題] 乳幼児期の子育て家庭（親子）が「遊びの中に学びがある」ことを体験的に学び、行動変容（実践）へつなげられるよう、<b>子供の主体性や想像力、豊かな感性を育てていくための学びや集いの場</b>をさらに広げていく必要がある。</p> <p>[取組の方向] 学び・集いの場に参加しない・しにくい家庭に向けて、安心して身近な場で参加できる・参加しやすいプログラムや実施手法の検討を進めるとともに、ネウボラ拠点等で<b>「遊びの中に学びがある」ことを体験する機会が提供されるよう、コンセプトの普及や最新の研究の知見を盛り込んだ内容を提供</b>する。</p>
<p><b>【施策5】</b> 地域による親子支援</p>	<p>[目指す姿] 保護者が身近な地域で気軽に相談でき、安心して子育てできる支援体制が充実しています。</p> <p>[現状] 市町の家庭教育担当課（教委）と母子保健や子育て支援担当課（福祉部局）等の関係者が参集し、県の施策の方向性や各市町の現状を共有する会議（推進委員会）を開催するほか、「親プロ」ファシリテーターステップアップ研修（延べ640名参加）、子育て支援・家庭教育支援研修会（延べ658名参加）を実施し、地域ボランティアの育成や関係者のネットワーク化を図った。また、地域の子育てボランティア等が、身近な地域住民として保護者の相談に気軽に乗ったり、親子の学びや地域との交流の機会を提供したりする「家庭教育支援チーム」の組織化支援により、これまでに7市町でチームが設置され、各地域を基盤に様々な活動が展開されるようになっている。</p>

	<p>[課題] 各団体・組織等が育成した地域ボランティア人材や体験プログラム等の資源・情報の共有や連携が十分でなく、個別に事業実施されている。また、園所等に通っていない、家庭から出にくいなど、園所等を通じた支援が届きにくい家庭（親子）に対して、<b>教育と福祉等の所管や組織の枠組みを越えて、地域をベースに切れ目なく支援ができる体制を充実</b>させていく必要がある。</p> <p>[取組の方向] 子育ての悩みや不安、様々な課題を抱える保護者へ支援を届けるため、「<b>家庭教育支援チーム</b>」が組織化されていない市町への支援を継続する。また、「家庭教育支援チーム」等の地域人材がネウボラ拠点や地域の子育て関連施設を基盤に活動するなど、「<b>ひろしま版ネウボラ</b>」の仕組みを活用した<b>家庭教育支援の充実・強化</b>を進める。</p>
<h3>III 行政・関係機関のつながり</h3>	
<p><b>【施策6】</b> 関係機関の連携の推進</p>	<p>[目指す姿] 特別な支援や配慮が必要な乳幼児やその家庭、また様々な理由で十分な家庭教育が困難な家庭への支援を充実させるために、関係する機関が相互に連携して課題の解決を図ることができています。</p> <p>[現状] 家庭の養育状況や発達上の課題等、乳幼児やその家庭の抱える様々な困りごとを支援する園所等の相談に応じ、様々な関係機関・専門機関とつなぐ「保育ソーシャルワーカー」を配置（R2：7名）し、派遣（R2：155件）している。また、特別支援学校のセンター的機能の活用として、幼児教育アドバイザーの訪問時に、特別支援学校教育相談主任が同行し専門的助言を行っている。（特支教育主任同行は全体の約2割）</p> <p>[課題] 特別な支援や配慮が必要な乳幼児がいる園所等の割合は89.0%であるが、そのうち、外部の支援者・サービスを利用している園所等は29.2%であり、<b>特別な支援や配慮が必要な子供や家庭への支援に向けた関係機関との十分な連携がとられていない状況</b>がある。 (広島県「乳幼児期の教育・保育の充実に関する調査」(R2.3))</p> <p>[取組の方向] <b>保育ソーシャルワーカーの配置を拡充</b>し、園所等を通じた関係機関の連携を強化するほか、声かけや指示等の具体的な養育スキルを獲得する「<b>ペアレント・トレーニング</b>」(※)の視点を取り入れた事業を新たに実施する。また、様々な背景を持つ家庭に早期に対応するため、「<b>ひろしま版ネウボラ</b>」や<b>様々な関係機関との連携の仕組みづくりを促進</b>する。 <small>※発達障害のある（または疑いのある）子供を持つ保護者が子供の特性や具体的な対応方法を身に付けることで、子供の適応行動を増やし、子育ての負担の軽減が可能になることをめざし開発されたもの。</small></p>
<p><b>【施策7】</b> 乳幼児期の教育・保育の充実のための支援体制の整備</p>	<p>[目指す姿] 乳幼児期の教育・保育を支援する拠点としての機能を果たす体制や仕組みが整い、乳幼児期の子供の育ちに関わる施策の立案や実施が総合的に行われています。</p> <p>[現状] 本県の乳幼児期の教育・保育を支援する拠点として、「乳幼児教育支援センター」を設置し、専門職員（実務経験豊富な幼稚園教諭・保育士等、指導主事、社会教育主事、心理職）を配置するなど体制を整備した。センターでは、①調査・研究、②情報発信、③研修、④相談・支援、⑤遊び等の充実を図る取組を軸に、教育委員会・福祉部局等の関係課や市町教委・保育主管課、幼児教育関係団体、幼稚園教員等養成大学、ネウボラ拠点、地域ボランティア等の多様な主体と連携しながら、「プラン」に掲げる施策を総合的に推進している。</p>

〔課題〕	教育・保育の質の向上に係る評価・効果検証等、乳幼児教育支援センターの機能である調査・研究の成果の発信が進んでいない。
〔取組の方向〕	教育・保育の質の向上のための研究促進・成果発信や、専門的職員の確保・配置等の体制整備を進め、乳幼児教育支援センターの専門的機能の充実を図る。

※目指す姿は、簡潔に記載するため、一部、抜粋・統合した。

## 7 乳幼児期の教育・保育を取り巻く情勢の変化等

現行プラン策定後の社会情勢・環境の変化や、今後の乳幼児期の教育・保育の方向性等について、有識者（アドバイザーボード）から聴取した主な意見等を整理した。

### （全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、主体的・協働的な学びの実現）

先行き不透明で「予測困難な時代」を迎える中、生涯にわたる人格形成の基礎を培う「乳幼児期」から、全ての子供たちが、豊かな自然環境や地域資源に実際に触れ、主体的・創造的な遊びや直接的な体験を通じて学び、未来に向けて力強く生き抜く力を育てていくことが重要である。

### （不登校児童・生徒の増加）

新型コロナウイルス感染症の影響や様々な要因により、不登校等、学校に行きづらい子供が増加傾向にある中、乳幼児期から子供たち一人一人に応じて、最適化された学びを届けるための支援の在り方を新たに検討していく必要がある。

### （子供や子育て家庭の多様性への対応）

家族形態・ライフスタイルの多様化、グローバル化、外国人材の受入拡大などにより、子供・子育て家庭の多様性が進展しつつある。また、貧困、虐待、育児不安、障害、外国籍等の特別な支援や配慮が必要な子供・家庭への支援について、さらに充実させていく必要がある。

### （教育・保育の質の向上や質の評価の促進）

幼児教育の無償化等による公的投資の拡大に伴い、それに見合うだけの質の高い教育・保育の提供が求められている。こうした動きを踏まえた国の制度改正（幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂）が行われ、幼稚園、保育所、認定こども園等における幼児教育の視点の共通化・整合性が図られた。新要領・指針に基づいた現場での実践に向けた支援を継続するとともに、各園所等の独自性を確保しつつ、教育・保育内容の改善・発展を図る質の評価の促進が求められる。また、これを実現するため、乳幼児教育支援センターの専門的機能をより一層発揮させていく必要がある。

## 8 次期プランに向けた見直し（強化・拡充）の方向性

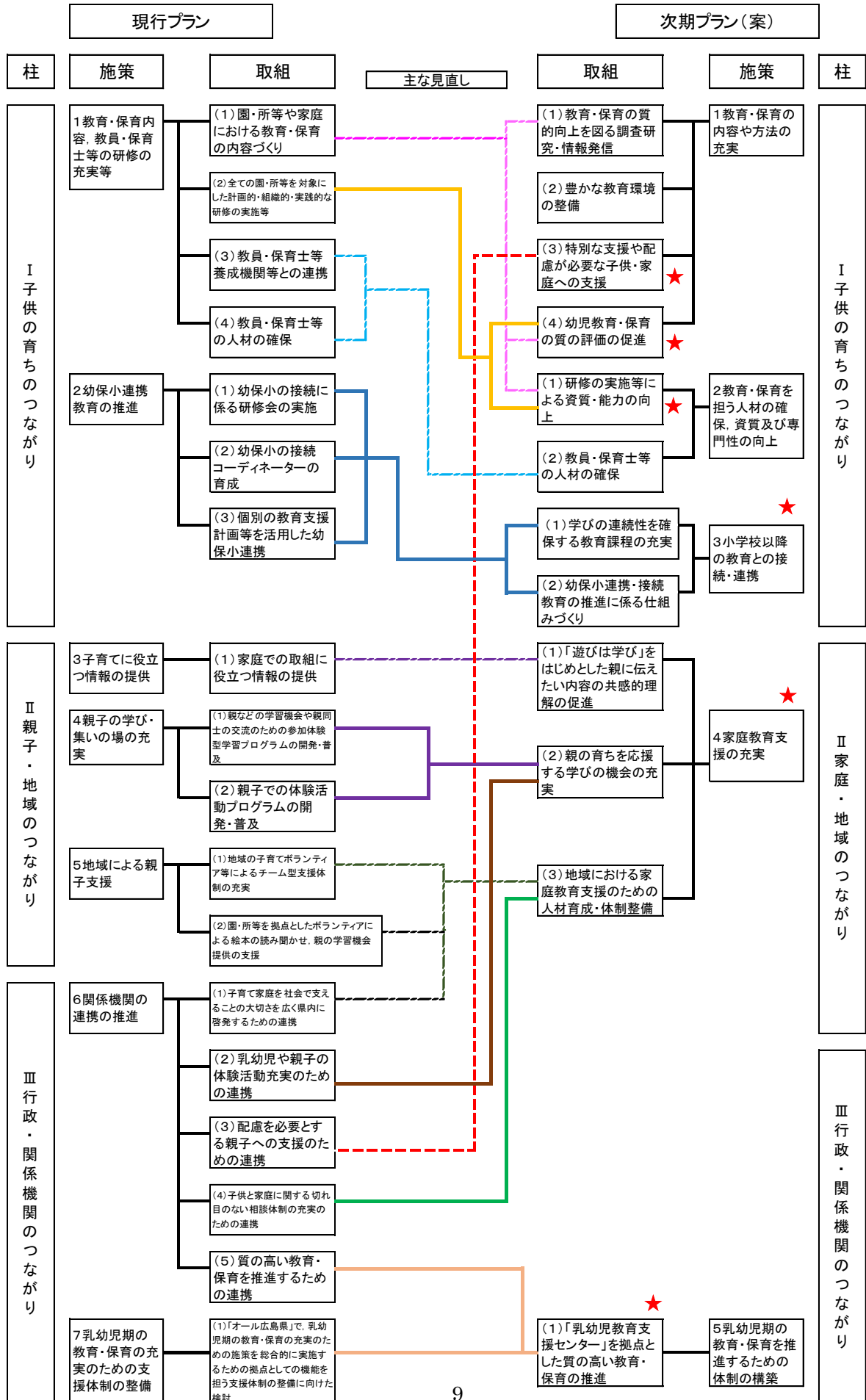
現行プランにおける課題と、現行プラン策定以降の社会情勢等の変化等を踏まえ、「遊び 育つひろしまっ子！」の実現に向け、次の6項目を強化・拡充する。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">「子供の育ちのつながり</p>	<p><b>★教育・保育の質の評価の促進 【㊦施策1 → ㊦施策1】</b></p> <p>各園所等の独自性を確保しつつ、遊びや生活の中で子供を理解し、子供の育ちや学びを教育・保育の改善・充実に生かすためのPDCAサイクルの構築に向けて、「ルーブリック評価」の観点を活用した評価の考え方を普及させるなど、教育・保育の質の評価を促進する。</p> <p><b>★園所等への訪問 【㊦施策1 → ㊦施策2】</b></p> <p>幼児教育アドバイザーの全園所等への訪問が3割程度にとどまっているため、今後、事業効果の発信や、小学校教員等との同行により、全ての子供の見取りにつなげる。</p> <p><b>★幼児期の教育・保育を小学校へ接続する仕組みづくり【㊦施策2 → ㊦施策3】</b></p> <p>全ての子供が安心感を持って学校生活に移行できるよう、学びの連続性を確保するとともに、個別最適な学びの実現に向けた連携を推進する。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">「家庭・地域のつながり</p>	<p><b>★家庭教育支援の新たな方策や体制の整備・充実 【㊦施策3～5 → ㊦施策4】</b></p> <p>保護者に伝えたい内容を科学的根拠（エビデンス）に基づく正確な情報として伝え、行動変容（実践）へとつなげる仕掛けを検討する。また、「目指す乳幼児の姿」や本県の教育・保育の基本的な考え方を家庭や地域と共有し、すべての子育て家庭への支援をさらに充実させるため、子育てアプリ、SNS(TikTok, Instagram)、電子広告等のデジタル技術を活用した新しい家庭教育支援の方策や、「ひろしま版ネウボラ」等の仕組みを活用した情報提供等、地域における切れ目のない家庭教育支援体制の整備を進める。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">「行政・関係機関のつながり</p>	<p><b>★特別な支援や配慮が必要な子供・家庭への園所等を通じた支援 【㊦施策6 → ㊦施策1】</b></p> <p>障害や外国籍等、特別な支援や配慮を必要とする乳幼児がいる園所等の割合は約9割と高いが、外部の支援を受けている割合は低い（約3割）ため、保育ソーシャルワーカーの配置を拡充して関係機関の連携を強化するほか、声かけや指示等の具体的な養育スキルを獲得する「ペアレント・トレーニング」の視点を取り入れた事業を新たに実施する。</p> <p><b>★乳幼児教育支援センターの専門的機能の強化・充実 【㊦施策7 → ㊦施策5】</b></p> <p>教育・保育の質の向上のための研究促進・成果発信を軸に、専門的職員の確保・配置や市町・行政・関係機関との連携促進等の体制整備を進め、乳幼児教育支援センターの専門的機能の充実を図る。</p>



9 現行プランと次期プラン案の体系比較

★次期プランにおいて強化・拡充する施策・取組



**I 子供の育ちのつながり****【10年後の目指す姿】**

県内の園所等において、本県の「遊びは学び」という乳幼児期の教育・保育の基本的な考え方が共通認識され、一人一人の子供が興味・関心に基づいてやりたいことを自由に選択できるような環境の中で、安心して主体性を発揮しながら「遊び」を展開していくことができる質の高い教育・保育が実践されることにより、「遊び 学び 育つひろしまっ子！」推進プランに掲げる5つの力（「感じる・気付く力」「うごく力」「考える力」「やりぬく力」「人とかかわる力」）が子供たちに生まれ、小学校以降の教育の基礎が培われています。

**【施策1】教育・保育の内容や方法の充実****【5年後の目指す姿】**

「乳幼児期に育みたい力」の育成に係る実践的な調査研究や、教育・保育の質・評価に関する手法開発、実践・検証が進んでいます。また、デジタル技術の活用等による豊かな教育・保育の環境整備、保育ソーシャルワーカーや特別支援学校のセンター的機能の活用等を通じた、特別な支援や配慮が必要な子供・家庭への支援の充実が進んでいます。

**【取組例】****（1）教育・保育の質的向上を図る調査研究・情報発信**

- ・「乳幼児期に育みたい力」の育成に係る実践的な調査研究
- ・「目指す乳幼児の姿」の実現に向けたモデルカリキュラムや教育・保育の手法開発、実践・検証
- ・本県の乳幼児期の教育・保育の基本的な考え方への理解推進

**（2）豊かな教育環境の整備**

- ・主体的・創造的な遊びを通じた自然体験活動の推進（ひろしま自然保育認証制度）
- ・園所等における本に親しませる取組の推進（園所等と公共図書館との連携）
- ・デジタル技術の活用

**（3）特別な支援や配慮が必要な子供・家庭への支援**

- ・保育ソーシャルワーカーの育成・配置
- ・特別支援学校のセンター的機能の活用促進
- ・外国につながる子供・家庭への支援

**（4）幼児教育・保育の質の評価の促進**

- ・教育・保育の質の評価に関する手法開発・成果の普及

**【KPI例】**

- ・「乳幼児期に育みたい力」の育成に向けて「自己評価」を実施している園所等の割合

**【施策2】教育・保育を担う人材の確保、資質及び専門性の向上****【5年後の目指す姿】**

園所等を対象とした計画的・組織的・実践的な各種研修等の様々な取組により、教育・保育を担う人材の確保や資質・専門性の向上が図られています。また、専門的な知識・技術を有する幼児教育アドバイザーによる訪問指導やファシリテーターの育成等を通じて、多くの園所等において園内研修の活性化が進んでいます。

**【取組例】****（1）研修の実施等による資質・能力の向上**

- ・全ての園所等を対象にした計画的・組織的・実践的な研修の実施
- ・幼児教育アドバイザーの配置による園所等の支援
- ・園内研修を実施するファシリテーターの育成と園内研修実施の支援
- ・行政機関・関係団体との連携による研修の実施・支援
- ・養成機関等と連携した人材育成

## (2) 教員・保育士等の人材の確保

- ・「就職説明会」や「人材バンク」等を通じた人材のあっせん、就業支援
- ・離職防止のための処遇改善の推進

### 【KPI例】

- ・幼児教育アドバイザー訪問利用又はセンター主催研修参加の実績がある園所の割合
- ・就業保育士数

## 【施策3】 小学校以降の教育との接続・連携

### 【5年後の目指す姿】

小学校においても、本県の乳幼児期の教育・保育の基本的な考え方が共通認識されており、全校で、園所等との協力のもと、幼保小合同研修や公開保育・公開授業などの幼保小連携に関する様々な取組や、接続を見通して編成・実施された教育課程の不断の見直しが行われるなど、子供の育ちと学びを円滑につなぐための教育活動が実践されています。また、こうした取組を通じて、小学校へ入学した子供が、安心感を持って新しい学校生活に円滑に移行しています。

### 【取組例】

#### (1) 学びの連続性を確保する教育課程の充実

- ・スタートカリキュラム、アプローチカリキュラムの改善・充実のための研修の実施
- ・幼保小連携担当教員の育成（幼児教育長期派遣研修）
- ・指導要録、個別の教育支援計画等を活用した連携・接続の充実

#### (2) 幼保小連携・接続教育の推進に係る仕組みづくり

- ・地域の実情に応じた組織的・計画的な幼保小連携・接続教育の推進に係る体制整備
- ・特別な支援や配慮を必要とする子供の育ちや学びをつなぐ取組の推進

### 【KPI例】

- ・幼保小連携・接続の段階が「ステップ4※」まで発展した市町数

※接続を見通して編成・実施された教育課程について実施結果を踏まえ更によりよいものとなるよう検討が行われている。

(出典：「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議 ※文部科学省主催)

## II 家庭・地域のつながり

### 【10年後の目指す姿】

「ひろしま版ネウボラ」等の仕組みを生かした、家庭教育・子育て支援に関する総合的なネットワークが整備され、多くの保護者が本県の「遊びは学び」という乳幼児期の教育・保育の基本的な考え方について共感的に理解し、保護者の子育てに対する自信や安心感が醸成されています。

## 【施策4】 家庭教育支援の充実

### 【5年後の目指す姿】

園所等やネウボラ拠点等の地域の拠点において、家庭教育を支援する地域人材の育成・活動支援が進み、子育てに役立つ情報や、学習機会の提供等が活発に行われています。また、「ひろしま版ネウボラ」等の仕組みを生かした、家庭教育支援・子育て支援に関する総合的なネットワークの構築が行われ、本県の「遊びは学び」という乳幼児期の教育・保育の基本的な考え方を多くの保護者が理解し、子育てに対する不安が軽減されています。

### 【乳幼児期の保護者に伝えたい内容】

- I 育みたい子供の姿
- II 家庭の役割
- III 「親」として大切にしたい考え方
- IV 子供との関わり方
- V 子供は社会で育てる

### 【取組例】

- (1) 「遊びは学び」をはじめとした親に伝えたい内容の共感的理解の促進
  - ・乳幼児期の親に伝えたい内容の発信
  - ・コンテンツの開発・提供
- (2) 親の育ちを応援する学びの機会の充実
  - ・多様な場・機会を活用した学びの提供
  - ・親育ちの学習プログラムの充実
  - ・親子参加型行事（あそびのひろば）の開催
  - ・家庭での読書活動への支援
- (3) 地域における家庭教育支援のための人材育成・体制整備
  - ・地域のボランティア人材の育成・ネットワーク化への支援
  - ・家庭教育支援チーム等を通じた保護者に寄り添う支援の充実
  - ・「ひろしま版ネウボラ」等の仕組みを生かした家庭教育支援の充実

### 【KPI例】

- ・「遊びの中に学びがある」 ことについて理解している保護者の割合

## Ⅲ 行政・関係機関のつながり

### 【10年後の目指す姿】

乳幼児教育支援センターの専門的な機能が確立し、園所等やネウボラ拠点等、子供たちを取り巻く様々な関係機関とのネットワークが構築されるなど、本県の乳幼児期の教育・保育を支援する拠点として、調査・研究、情報収集・発信、研修、相談・支援、遊び等の充実を図る取組などの機能が果たせる体制が整っています。

### 【施策5】 乳幼児期の教育・保育を推進するための体制の構築

#### 【5年後の目指す姿】

乳幼児教育支援センターにおいて、専門職員の育成・確保の仕組みが進み、必要な職員が配置されるとともに、園所等、関係団体、ネウボラ拠点、子育て世代包括支援センター等、子供たちを取り巻く様々な関係機関との連携や、調査・研究、情報収集・発信、研修、相談・支援、遊び等の充実を図る取組などの機能が果たせる体制づくりが進んでいます。

### 【取組例】

- (1) 「乳幼児教育支援センター」を拠点とした質の高い教育・保育の推進
  - ・専門職員の育成・確保の仕組みの確立
  - ・乳幼児期の子供・家庭を取り巻く様々な関係機関とのネットワーク構築
  - ・調査・研究、情報収集・発信、相談・支援、遊び等の充実を図る取組等の機能の推進
  - ・総合的に施策を推進するための拠点としての機能を担う支援体制の構築

### 【KPI例】

- ・子供たちを取り巻く様々な関係機関とのネットワークの構築